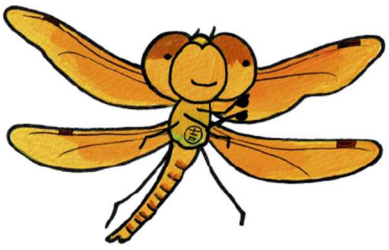

協力：風早活性化協議会

オオキチくん通信

寒くなってきたけど、元気ですか？
生きものが冬を越（こ）すことを、
越冬（えっとう）って言うんだ。
いろんな越冬のしかたがあるんだよ！

2019年12月号
発行：NPO法人森からつづく道
URL:http://morimichi.org/
★上記HPからダウンロードできます
独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しています。

トンボの冬越（ふゆご）しのいろいろ

トンボは、卵（たまご）、幼虫（ようちゅう）、そして成虫（せいちゅう）のいずれかで、寒い冬をすごします。ここでは、風早地域で見られるトンボを中心に、トンボの越冬（えっとう）の方法について紹介します。

トンボは冬だからいなくなるわけじゃなくて、卵か幼虫か成虫かで冬でも生きています。冬のトンボを観察（かんさつ）するのもおもしろいかも！？

①卵越冬（らんえっとう）

オオキトンボなど大部分（だいぶぶん）のアカトンボの仲間は、卵で冬を越します。ほかに、カトリヤンマなども卵で越冬します。

オオキトンボ卵

クロスジギンヤンマ幼虫

②幼虫越冬（ようちゅうえっとう）

ギンヤンマ、タイワンウチワヤンマ、オニヤンマ、オオヤマトンボ、コフキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボなどは、幼虫で越冬します。

③成虫越冬（せいちゅうえっとう）

日本ではオツネントンボ、ホソミオツネントンボ、ホソミイトトンボの3種類のみ、成虫で冬越します。これら3種類とも、風早地域で見れます。ため池近くの草地の、かれた枝などに止まったまま冬を越します。

オツネントンボ成虫

（久松定智）

★楽しかったね！風早にぎわいレトロまつり2019★

11月4日（月・祝）、とってもいい天気で、おまつり会場（かいじょう）の河野別府こうえんは、たくさんの人でにぎわいました。

ステージイベントでは、風早にある7つの地区（ちく）それぞれの、わがまちじまんがあって、注目（ちゅうもく）を集めていました。食べ物や体験コーナーも大人気だったね！

森からつづく道の自然物を使ったオブジェ作りのコーナーもたくさんのお友だちが来てくれました！

あのムシは今？！【ゴマダラチョウ】（幼虫）

幼虫（体長2cmほど）

成虫（はねを広げた長さ7cmほど）

幼虫はツノがある茶色のイモムシで、冬の間は食草（しょくそう）のエノキという木の根元で、しめった落ち葉にとまってじっとしています。成虫は白と黒のおしゃれなチョウで、初夏から樹液（じゅえき）やくさりかけた果物などにやってきます。この冬幼虫をさがしてみてね☆

けっこういるよ！！　（武智礼央）

まつぼっくりコレクション＊カラマツ＊

カラマツのまつぼっくりは高さが2～3cmくらい。お花のようにかわいいので、リースなどの材料（ざいりょう）に人気です。カラマツは、四国にはもともとない木で、植えられたもの。高縄山の遊歩道（ゆうほどう）にもあります。マツのなかまですが、秋には葉が黄色くなって落葉（らくよう）します。

くっつき虫の作戦（さくせん）

オオキチくん通信　2019年12月号

植物のタネには、服にくっつくやっかいものがあります。もともとは動物の毛にくっついて運ばれる作戦。
だからタネの位置はタヌキやシカのせたけくらいで、高くはありません。

かぎづめ

オオオナモミ

オヤブジラミ

アレチヌスビトハギ

かぎづめで引っかかる方法。
マジックテープのヒントに
なったといわれています。

ぎゃくトゲ

コセンダングサ

どこでも生えているから、みん
な見たことはあるでしょう。
ぎゃく向きの小さなトゲがあっ
てなかなかはずれません。

アメリカセンダングサ

ネバネバ

コチヂミザサ

粘液（ねんえき）
でくっつくので、
服もネバネバ。

つきささる

服の繊維（せ
んい）にささっ
て、なかなか
取れません。

イノコヅチ

風早の景色

オオキトンボはオスとメスのペアで産卵（さんらん）します。後ろのメスは100回近く水面（すいめん）にお尻（しり）を打ち付けて卵を生み、やっとオスとはなれたしゅんかん、水面にうら返って落ちました。すくって腕（うで）にのせると服の上に産卵を始めました。最後の力をふりしぼって。

今月の植物　★ムサシアブミ

サトイモ科の多年草（たねんそう）で、春～初夏に花をつけます。秋には地上部がかれて、果実が熟（じゅく）します。毒があるので、ぜったい食べないでね。
タネ運ぶのは鳥などの動物で、赤い色は食べごろを示すCM効果があるらしい。鹿島ではシカが食べないのでこの仲間が多く、ふつうに見ることができます。

ちょっといっぷく

りょうしんいち 良心市

浅海

道路わきに野菜やくだものが並べられていて、お金は買う人が支払口に入れるだけ。日本的なすばらしい地産地消（ちさんちしょう）のシステムだと思います。

そうやったんかい！　外来生物 ⑩

ヒメツルソバ（カンイタドリ）

中国南部～ヒマラヤ原産のタデ科の多年草。石がきや道ばたでふつうに見られ、ピンク色の花はなかなかオシャレ。近年増えていて、いろいろなところで出合います。かわいい花だけど、栽培（さいばい）するときには注意が必要。日本へ入ったのは明治中ごろで、1960年代から野生化したらしい。